

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・「明るく豊かな人と人とのふれあい」の理念の下、地域の中で楽しく心豊かに過ごして頂ける様努めている。	同左
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・毎月の職員会議や、勉強会で話し合いスタッフ全員に浸透している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・保育園・小学校・交番・消防団・町内会長・婦人会長・老人会長宅等にパンフレットを持参し、協力をお願いしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・近所の方が花見に来られたり、手作りの籠を持って訪問して頂いたり、気軽に立ち寄ってもらっている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・近隣の小学校の運動会や、町内会行事「8月踊り」に参加するなどしている。小・中学生による棒踊りは、ホームに立ち寄ってもらっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>・独居高齢者のお宅を訪問し、玄関先にて様子を伺ったり、困っている事等あれば力になっている。</p>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>・スタッフ全員で自己評価を行い、外部評価後は、いっそう素晴らしいグループホーム作りに取り組むための話し合いを行っている。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・外部評価の報告を行い、地域との交流についても話し合い、町内会長より町内会行事の連絡を頂き、地域との交流を図っている。</p>	
9	<p>○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・市町村との連携を密にとり、認知症ケアの向上に向けて取り組みを行っている。家族会にも参加して頂き、利用者家族と一緒に食事をし、話をする場もある。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>・スタッフに成年後見人をしている者がおり、必要な人がでてきた場合、いつでも制度を活用できる様支援できる。</p>	
11	<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>・開かれたグループホーム作りをし、家族の面会も多い。全スタッフが協力し、入居者の小さな変化も見逃さない。毎月の勉強会でも話し合っている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居時に、契約書、重要事項説明書の十分な説明がなされ、解約時も家族の希望を優先しつつ、十分な説明を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・毎日の生活の中で全スタッフがいつでも、利用者の体調や困っている事、やりたい事等の声掛けを行いながら、より質の高いサービスを心掛けている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・体調に変化があった場合、その都度家族に連絡を行っている。金銭管理は家族の面会時に確認して頂いている。又、スタッフ紹介も行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見箱を設けたり、家族の面会時に困っている事等ないか、何でも話して頂ける様、声掛けを行っている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月の職員会議でスタッフの意見を聞く機会を設けてあり、より良いグループホーム作りに結びついている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・職員は十分確保出来ている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・ユニットに一名の退職者がいたが、馴染みのスタッフがほとんどであり、利用者との信頼関係は良好である。	
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・各研修へ参加し、毎月の勉強会にもスタッフ全員が参加している。日々、勉強したことをレポートにまとめて毎月提出している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・ネットワーク作りを行い、地域の同業者と交流しサービスの質を向上させる取り組みを行っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・職員全員で何でも話し合い、明るく楽しい雰囲気作りに心掛けている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・常に高い目標を持って、それに向けてスタッフ全員で勉強し努力している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・本人とじっくり話をし納得して頂き、ホームに入居後は本人の困っている事不安な事にスタッフ全員で対応し、グループホーム内外の生活環境に慣れていただく様努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・ご家族とじっくり話をし、不安に思っている事、要望、希望等、求めている事をよく聴き、何でも話してもらえぬ雰囲気作りに努めている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人、家族、時にはD r. も交えて、その時本人にとって何が一番かを見極めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・最初はホームに来て頂いたり、雰囲気に慣れて頂くまで家族と連絡を取り合いながら、本人が安心して生活できるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・ちまき作り等一緒に楽しく作業しながら学ぶことが多い。料理作りが好きな方には台所に立って頂いたり、もやしのひげ根取りは、ほとんどの方の手伝いを頂いている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・家族会への参加や面会も多く、病院受診時も協力を頂いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・必要時は電話で話をし頂いたり、面会時は自室にてお茶を飲みながら楽しい一時を過ごして頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・毎月遊びに来て下さる知人の方も有り、部屋にて一緒にお茶を飲んで頂いている。遊びに来やすい雰囲気作りに努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・それぞれが楽しく会話をする場を確保し、馴染みの関係がそれぞれに深まっていく様努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・必要とする家族や利用者とは連絡を取り合い、付き合いを大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入居者の要望にそって、年間の行事計画も立て、いつでも入居者の出来る事さがしに心掛けている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・一人ひとりの生活歴はスタッフ全員把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・毎日のバイタルチェック後、天気の良い日は散歩に出かけ、ホーム内では料理好きな方には台所にて昼食作りに参加して頂いている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・本人を中心にして、御家族の希望、スタッフの意見を反映した介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・介護更新時に見直しを行っているが、入院等大きな変化が生じた場合、関係者と話し合い新たに作成している。	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別に記録をファイルし、朝・夕の引継ぎにて情報を共有している。介護計画の見直しにも活かされている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・家族が遠方より来居された折は、一緒に昼食を摂って頂いたり、又、まだ泊まられた方はいないが宿泊も出来る事を説明し、状況に応じて対応できるようにしている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・民生委員、町内会長、交番、消防団への協力依頼の挨拶まわりに行き、消防団の協力の下、火災避難訓練も行っている。	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・必要性に応じて、サービス事業者やケアマネジャーと話し合いながら、より良いサービスを受けられる様、情報交換している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・地域包括支援センターより運営推進会議への参加もある。現在のところ解決困難な状況はないが、今後必要があれば、地域包括支援センターと協働していきたい。	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・全員かかりつけ医があり、定期受診を行っている。病院受診は家族の協力も得られて、適切な医療が受けられている。	
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・スタッフが代理受診するなどして専門医と相談しながら治療が受けられるよう支援している。	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・定期受診時、バイタルチェックをしながら本人の今の状況を説明したり相談にのってもらっている。	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院時は度々病院を訪ねている。 本人が早い退院を希望された場合は病院関係者との相談や情報交換を行いながら応じた事もある。	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・早い段階から、かかりつけ医から家族への説明をして頂いたりし、本人の状況を全員が分かり、方針を共有している。	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・グループホームで、「出来る事」「出来ない事」をかかりつけ医と相談しながら、できる支援は行っていく。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・本人に必要な情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぎサービスがスムーズに受けられる様努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・誇りやプライバシーを損ねる事の無い様「です」「ます」で言葉掛けには十分注意している。個人情報やプライバシーが守られている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・理容・外出・着替え・食事の献立等、希望を表せるよう、分かる力に合わせた説明をした上で決めて頂いている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・居間にてゆっくり新聞を読んで頂いたり、「ゆったりと急がず穏やかに」一人ひとりのペースを大切にされた支援を心掛ける。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・訪問理容のボランティアが有り、髪をカットして頂き、皆さんに喜ばれている。又、希望があればスタッフが髪染めも行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・料理の好きな方は台所に立たれたり、食べたい物の希望も言われる。盛り付けを一緒に行い、準備ができれば全員で楽しく食事をし、できる方は下膳やテーブル拭きを一緒にされる。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・希望に応じて、焼き芋や手作りケーキやキンカン漬け等をおやつに出したり、コーヒーも飲んで頂いている。	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・尿意のない人の排泄パターンをスタッフが把握し、トイレ誘導を行っている。おむつ使用者はいない。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・基本は、毎日入浴である。時間帯は希望に応じている。薬風呂にて、ゆっくりくつろいだ入浴を心掛けている。	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・散歩や体操で体を動かしたり、台所仕事に参加して頂き、生活リズムをつくり、気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・園芸、生け花、台所仕事、洗濯物たたみ、手先を使った仕事(もやしの根切り等)をして頂いたり、訪問パン屋さんでは、自らあんパンやうぐいすパンを買われ楽しまれている。	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・自己管理できる入居者に支援している。移動売店にて手持ちのお金で買い物を楽しまれている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・毎日、ホーム周辺の散歩を行っている。ショッピングや、時には外食したり、花見をしたり、いちご狩りにも出掛けたりしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・夏は、錦江町まで海を見にドライブに出掛けたり、足湯の希望も有り、垂水道の駅へ手作り弁当持参にて出掛けたりしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人の希望で電話をかけられたり、暑中見舞いや年賀状も出されている。手紙を書かれる方も居る。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・気軽にいつでも来ていただける様な雰囲気作りを心掛け、入居者の皆さんと一緒にお茶を飲みながら楽しい一時を過ごして頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束禁止は職員も認識しており、行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・夜間帯は鍵を使用しているが、日中は散歩に出掛けたりして、鍵をかけない工夫をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・スタッフ全員で、常に居場所や様子を把握し安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・ハサミ、包丁はスタッフと一緒に使用される。注意の必要な物品は、入居者の手の届かない倉庫に保管、管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・その為の知識を学び、入居者に寄り添い、目配り・気配りし事故の無い様心掛けている。尚、マニュアルも有る。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・グループホームにて普通救命講習会を行ったり、事故発生時のマニュアル本もある。今年も普通救命講習会の勉強会が入っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・地域の方々の協力の下、火災避難訓練を定期的に行っている。火災、地震、風水害時のマニュアルも有る。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・体調の変化に応じて家族への説明を行い、又、ドクターから家族への説明もして頂き、日常の暮らしを大切にしながら、その都度話し合っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・毎朝のバイタルチェック、食事量のチェック、排便排尿チェックを行い体調変化の早期発見に努めている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・入居者の病状や飲んでいる薬は、毎月の勉強会で把握している。医師の指示内容を職員は把握し、声掛けしながら慎重に行っている。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・焼き芋や具沢山の味噌汁、又は野菜を多く使った料理を心掛け、毎日の散歩、午前午後のラジオ体操で身体を動かして頂く。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・入居者の力を引き出しながら、食後の歯磨き支援を行っている。中には全介助の方もいる。(義歯洗浄)	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・おおよそのカロリー、栄養バランスを把握し食事量は記録している。水分は5回以上に分けて摂って頂き、おかわりし飲まれる。水分量も記録している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染症に対する取り決めがあり、インフルエンザの予防接種もしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・ハイター消毒、熱湯消毒や食器乾燥機を使用している。裏庭で無農薬野菜を作るなどして新鮮、安全な食材作りにも努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関周りは、季節の花や緑に囲まれて、親しみやすい表札も掛け、入りやすい工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・生活空間はゆったりとして和室も有り、居間には季節の花を飾ったりし、居心地よく過ごして頂いている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・話好きな人達のグループや、テレビ鑑賞される人達が、居間や和室のソファ、畳にて思い思いに過ごして頂いている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人や家族と相談しながら、タンスや藤椅子、遺影、家族の写真を持ってきて頂き、家庭と変わりなく生活して頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・窓を開けたりして、換気を行っている。 ・温度調節は、冷やし過ぎ暖め過ぎが無い様、入居者の状況に応じてこまめに行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	・手すりが全てに設置され、廊下も広く車椅子用 のトイレも有り、安全に生活出来るよう工夫して いる。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	・入居者の出来る事探しをし、日常の生活の中で 本人が活躍できる場を設け、声掛けにて本人の自 信となる支援を行っている。(手先を使った、も やしの根切り、生け花、料理の盛り付け等)	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	・桜の木の下で昼食会やお茶会をしたりし、憩い の場となっている。	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)